**歴教協第42回中間研究集会「治安維持法と現代―2024年東京大会に向けて」を終えて**

歴史教育者協議会研究委員会

**1、2024年第42回歴史教育者協議会中間研究集会プログラム**

日時　2024年1月7日（日）　10 時～16 時

場所　東京労働会館・ラパスホール（対面＋オンライン）

➀開会　　 10:00

②午前講演会　 10:15～12:00　（1時間45分）

●講師　荻野富士夫さん（小樽商科大学名誉教授/快諾・対面）

●テーマ「治安維持法と現代―2024年東京大会に向けて

―日本国内そして朝鮮・台湾・「満州国」において治安維持法はいかに運用されたか―」

③昼食　　　　　　12:00～13:00（荻野さんサイン会あり）

④午後報告　 13:00～15:05

●報告者➀石山久男さん（元歴教協委員長/快諾・対面）13:00～14:00

●テーマ「平和への展望を開く学びをどうつくるか」

●報告者②杉見朝香さん（和光小学校）14:05～15:05

●テーマ「なぜ防衛費をあげるのですか？沖縄学習から、首相に手紙を送った子どもたち」

⑤休憩　　　15:05～15:15

⑥意見交流　15:15～15:55

➆閉会 16:00

**2、総括**

1月7日（日）に「治安維持法と現代―2024年東京大会に向けて」というテーマで、第42回中間研究集会をラパスホールで実施した。会場に57人、オンラインに49人の合計106人の参加があった。

午前の講演では、荻野富士夫さん（小樽商科大学大学名誉教授）が「治安維持法と現代―2024年東京大会に向けて―日本国内そして朝鮮・台湾・「満州国」において治安維持法はいかに運用されたか―」をテーマに、治安維持法が国内だけでなく植民地朝鮮・台湾そして「満州国」にも運用された歴史について、さらに現代の形を変えた思想弾圧について語った。

治安維持法施行100年を前に治安維持法の「悪法性」をより明確にするために➀植民地統治を支える治安体制はどのように形づくられ、どのような意味をもったのか、②それは植民地統治に反対する運動・意識を具体的にどのように抑圧し、取締ったのか、③治安維持法運用における日本国内・台湾・朝鮮・「満洲国」の比較という3点に関して、豊富な治安維持法関係史料を示しながら、わかりやすく解説さらに問題提起をされた。中でも③に関しては、「各治安体制と日本国内治安体制の比較異動」について詳しく触れ、全体で共通する治安維持法の運用状況は、懲役刑に固定して、目的遂行罪を駆使した拡張解釈で1930年代が治安維持法発動のピークになったことを明らかにした。

続けて「「大東亜治安体制」の構築へ」では、戦時体制の進行のなかで「日満支」による「東亜新秩序」建設＝「東亜防共体制」、それを保障する「東亜治安体制」、「大東亜治安体制」が構築されたことを語った。参加者の声に「植民地に対する治安維持法も、内政の干渉に大きく影響を及ぼし、侵略のツールとして用いられてしまう危険性を含んでいることがわかりました。歴史総合だけでなく、公共や政治・経済の授業での実践に繋げられるイメージができました」と今後の授業実践につなげたいという感想や「撫順戦犯管理所から釈放された人物が『認罪』を嘘だったと言って司法界に復帰したというお話しは衝撃的でした」にあるように、当時「司法官参事官」として悪行の限りを尽くした人物の戦後に治安維持法が今につながることを再確認することができた。

　午後は、午前の講演を受けて石山久男さん（前歴教協委員長）が「平和への展望を開く学びをどうつくるか」、続けて杉見朝香さん（私立和光小学校）が「なぜ防衛費をあげるのですか？沖縄学習から、首相に手紙を送った子どもたち」を報告した。参加者の声を紹介したい。「戦後の平和への努力をもっと取り上げるべきという石山さんの指摘に共感しました。武力紛争が起こる昨今、子どもたちに平和への展望を持ってもらうためにも、グローバルサウスの可能性などしっかり語っていきたいと思いました」、「子どもたちの主体性が素晴らしいと思った。これぞ主権者を育てる教育だと思った。また、子どもたちの主体性を受けとめる杉見さんがすごいと思う。授業というのは、教師の人間性が問われるものだと思った」

時宜にかなったテーマということもあって実りある討議ができ、東京大会への流れをつくることができた。

**アンケートから**

《研究集会はいかがでしたか》

　来年が「治安維持法100年」ということもあり、授業実践につなげることができると概ね好評でした。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 2024.1/13現在集計 | 満足した | まずまずだった | 不満だった |
| オンライン参加者 | 8人 | 4人 | 1人 |
| 会場参加者 | 6人  | 2人 | 0人 |
| 合計 | 14人 | 6人 | 1人 |

※「不満」に関して、内容ではなくオンラインの通信状況に「不満」という説明あり。

ご参加いただいた皆様、参加はできなかったけれど宣伝をしてくださった皆様、本当にあり

がとうございました。それでは、みなさん、東京大会でお会いしましょう。

